
技術研究報告の発刊にあたり



執行役員 技術本部長
永田 尚人

熊谷組技術研究報告第79号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

ちょうど1年前、我が国でも感染が確認されたCovid-19（新型コロナウイルス）の世界的な感染拡大が現在も継続しております。2020年4月に発出された緊急事態宣言により、私たちの日常生活や企業活動は大きな制約を継続して受けております。このような状況下にもかかわらず、三密状態が日常的に繰り返される建設現場において、感染の発生を最小限に抑制していることは、建設企業のマネジメント力の高さを物語っていると考えられます。

私共の研究開発業務は、様々な分野の方々との協調により進められてきたものであり、ICTの進展によりWEB会議システム等でかなりの部分が代替されてきたとはいえ、大きな制約を受けていることも事実です。

人と人が触れ合う空間を衛生的で安全な空間へと変えていくこと、毎日の生活を心豊かに過ごしたいと願うすべての人のために先進技術を導入して人々に寄り添うことが、多くの方々との議論を通して進めるこれからの技術開発に求められているものと思われま

す。我々を取り巻く社会環境は大きく変化してきておりますが、解決すべき課題やお客様のニーズに対して常にチャレンジ精神をもって、新たな価値を提供してまいりたいと存じます。本研究報告をご一読されご興味を持たれたお客様におかれましては、多くの課題解決につきまして意見交換をお願いできれば幸いです。

今回お届けする熊谷組技術研究報告では、「中大規模木造建築」を特集いたしました。

この分野における権威でもあり、弊社が技術的なご指導を頂戴しております東京大学大学院の稲山正弘教授より、「これからの中大規模木造建築」と題する巻頭言を寄稿して頂いております。また弊社では、現在中大規模木造建築の技術開発に鋭意取り組んでおり、その開発状況や欧州における動向ならびに大規模木造建築の施工報告など、今回の特集に関連する特集報文3編を掲載しております。

研究論文ならびに研究報告では、「持続可能な世界」を実現するために進むべき道を示しているSDGsの目標のうち、「住み続けられるまちづくり」に関する研究開発の事例として「電子受容体を利用した油含有土壌の省力低コスト嫌気処理法の開発」、建設現場の生産性向上を図る取り組みであるi-Constructionに関する基礎的検討としての「三次元レーザスキャナの性能試験と機器別特性の検証」などを含めて12編の知見をご紹介します。

土木分野の施工報告では、高速道路リニューアルに貢献する「コッター床版工法」による橋梁床版取替工事の報告を含む4編、建築分野では大空間を実現する立体トラス鉄骨屋根の事例報告1編をご紹介しますとともに、今年度も、土木技術発表会および建築技術発表会から注目された計5編の報文も併せて掲載しています。

発災から十年を迎える東日本大震災、いまだ継続中である新型コロナウイルス感染症などのように急変する社会環境にあって、持続可能な世界を実現するために建設業の役割はますます大きなものになると思われま

す。皆様におかれましては、この熊谷組技術研究報告をご高覧いただき、格別のご理解とご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年1月
